

2011年 7月 29日

教育長 尾形 完治 殿

日本共産党広島市議員団
団長 中原 ひろみ
幹事長 村上 あつ子
副幹事長 近松 さと子

日本の侵略戦争を美化する教科書の不採択を求める申し入れ

来年度から使用される中学校教科書が、8月31日までの採択にむけて、現在、選定作業が実施されると聞いています。「新しい歴史教科書をつくる会」と「日本教育再生機構」が、それぞれ自由社と育鵬社から出している中学校の「公民」教科書には「大日本帝国憲法は人権を大切にしたい良い憲法だ」と描き、「日本は正しい戦争をやった」と子どもに思い込ませる内容になっており、歴史をゆがめる教科書を採択すべきではないと考えます。

また、自由社・育鵬社の「公民」教科書には、いま大問題になっている原子力発電についても露骨な推進論が書かれています。子どもに原発推進を教えることは許されない事です。

第二次世界大戦で日本が、他国を侵略し植民地にし、アジア諸国民に甚大な被害を与えたことは事実です。そうした国が過去の行為をきちんと反省することは、国際社会にたいする当然の責任であり、偽りの歴史からまともな愛国心は生まれません。

国民の誇りは負の歴史にも誠実に向き合っこそ育まれるはずです。

自国の歴史、とくに近現代史の学習は、子ども達が主権者として成長していくうえで、大きな意味をもっています。未来の日本の担い手である子ども達が、愛国心を持って平和と民主主義の精神で自らの道を堂々とあるいていくためにも、自国の歴史、文化などの事実に基づく学習や憲法の平和的民主的原則の学習こそ不可欠です。

広島市教育委員会におかれましては、子どもの学習にもっとも良いものを選ぶという教科書採択の目的に照らし、義務教育の中学校教科書に、侵略戦争を肯定する不適切な教科書を採択されることのないよう求めます。

以上